

B-19 塩素化メラミンの漂白効果について

茨城大教育 ○村山 絃子
お茶の水女大家政 矢部 章彦
林 雅子

1. 塩素化イソシアヌル酸系漂白剤と類似の構造をもつ塩素化メラミンの漂白剤としての性能について、保存中の安定性、染料溶液の退色、木綿布の漂白効果などの点からジクロロイソシアヌル酸カリと比較しながら検討した。試料：漂白剤：モノクロルメラミン、ジクロルメラミン、トリクロルメラミンの3種、染料：Acid Orange R* (C.I. 15575) 塩析による精製を3回繰り返した。繊維：カナキン2003番未晒布（反射率72.2%）あらかじめリサポールN水溶液中に30分浸漬した後、水洗、脱水して用いた。

2. (1) 保存安定性については、40, 60, 80% R.H.に調整した硫酸デシケート内の試料の有効塩素の経時変化を測定した。(2) Acid Orange Rの0.005%水溶液に種々の濃度の塩素化メラミン水溶液を加え、主波長 ($m\mu$)の光学密度の低下から漂白効果を判定した。(3) 塩素化メラミンの濃度、温度、pHを変えて、繊維試料を漂白し、反射率を測定した。

3. 塩素化メラミンの保存安定性は良好であった。染料溶液の退色については、ジクロロイソシアヌル酸カリと類似の退色一時間曲線を示し、漂白剤としての作用、性能はこれと同様であると思われる。溶解度は、従来の漂白剤に比べ、非常に低かった。木綿布の漂白効果については1000 ppm以上の濃度（懸濁状態である）では良好な結果が得られた。しかし、ジクロロイソシアヌル酸カリとは異なり、pHの影響は認められなかった。

*

